

手児奈靈堂 (手児奈靈神堂) / 市川市

JR市川駅から北上し、手児奈靈堂に向かう道すがら、京成の市川真間駅近くの踏切にはこんな標柱があった



稻荷神社(手児奈靈堂)入口







同 福荷神社

受姫命

宮 公(菅原道真公)

主殿 菅原道真公(菅原道真公) 氏神 菅原道真公

御神徳 菅原道真公

成道祭

初年祭

祈年祭(春祭)

天満宮祭

大祓式

例大祭

七五三祭

大祓式

二月三日

三月十日

四月八日

五月十五日

六月二十日

七月八日

八月十五日

九月八日

十月十五日

十一月八日

十二月十五日



正面が稲荷神社







そしてここが、お目当ての手児奈霊堂

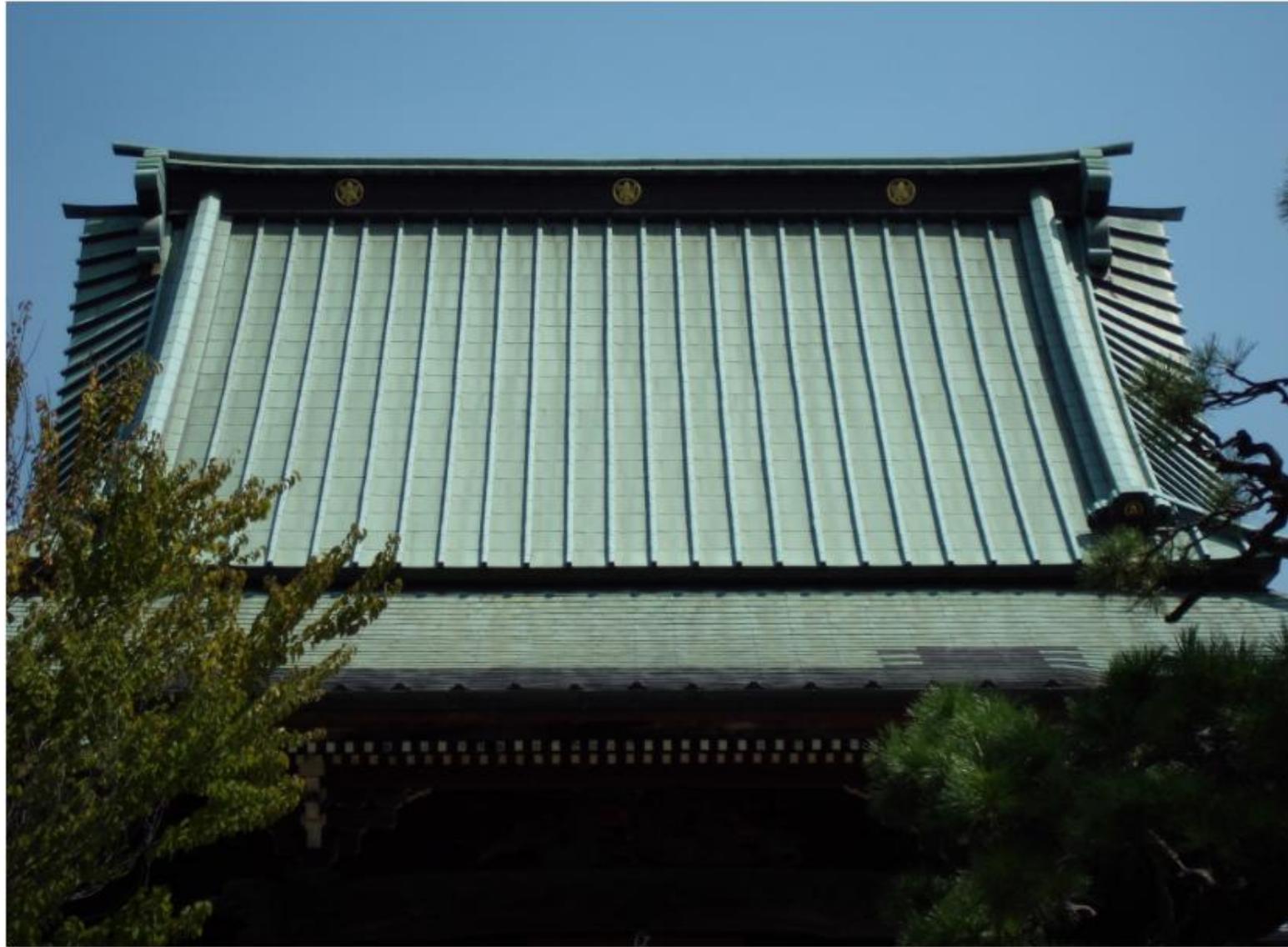


参考ホームページ
<http://www.tekona.info/>



木造で銅板の屋根は鍔葺きとなっている







上層の屋根は妻側に廻り込んだ形となっている





妻側に廻り込ませるために隅に小さな棟を造っており、妻面の葺甲がそこにぶつかっている(破風はずっと手前で上層屋根に下りてしまっている)











参考



































山部赤人の歌が刻まれている石碑



山部赤人や高橋虫麻呂が既報告の下総国分寺に来ていたらしい

われも見つ人にも告げむ葛飾の

真間の手見名が奥津城処

山部赤人の歌 卷三 挽歌

万葉集卷三には「勝鹿の真間娘子の墓を過ぐる時
山部宿禰赤人の作る歌一首并に短歌」として

「真間の手見奈の奥津城（墓）は、こことは聞いて
いるけれど、真木の葉が茂っているせいだろうか、
松の根が長く延びているように、時が永く経ったか
らであろうか、その墓はみえないが、手見奈の話だ
けても、名前だけでも、私はいつまでも忘れること
はできないでしょう」と歌った後にこの反歌（長歌
の終りに詠み添える短歌）を載せて
「や」とのことで探し当てたのだから、人にも語っ
て聞かせましょう、真間の手見奈の墓所のようにす
と結んでいるのです。

万葉歌人として世に知られた山部赤人や、高橋虫
麻呂が下総国府（国府台）に置かれたと推定されてい
ます。に来たころは、既に手見奈は伝説の人として
真間の地に語り伝えられていたのです。

平成二年三月

市川市教育委員会

すぐ隣に亀井院という寺院があった



折角なのだからもう少し読めるようにメンテしてほしい(歴史と文化財をこよなく愛するさすらいの年金生活者より)

真間之井と亀井院

万葉の歌人高橋玄成は、手見井が真間の井で水を汲んだという伝説を聞いて、
「真間の井を見れば水も清し」
水汲ましけむ手見井し思ほゆ

「真間の井」の井を見れば、いつもここに立って水をくんだという手見井が感
ばれる。この歌を残した。この真間の井は亀井院にある井戸がそれであると伝えら
れている。

亀井院は寛文十二年(一七二五)真間山弘法寺の十一世日立上人が弘法寺貫主の
職を寺として建立したもので、当初「亀井坊」と呼ばれた。亀井とは湧き水がこ
うして流れて水が清いように湧き出ていたところからつけられたものである。

その後、元禄九年(一六九〇)の春、鈴木長徳は寺文書室を亀井院に移り、その
寺域を平らげた。その後、亀井院と改められた。以来、亀井院は鈴木院といはれるようにな
った。

長徳は当時弘法寺の十七世日立上人と語り万葉集に取られた「真間の井」、真
間の井子(手見井)の處に、長徳の所在を後世に伝えるため、それぞれの地に
銘文を刻んだ碑を立てた。水寺の入口にあるのがその時の真間之井の碑である。

長徳没後、鈴木家は後醍醐天皇の御名も、また亀井坊と改められた。これは井
のそばに宮殿が建ったからといわれている。

北原白秋が亀井院で生活したのは、大正五年五月中旬から翌年一月半にわたって
のことである。それは彼の生涯で最も生活の困難した時代であった。

水汲に水の端に寄すもは
白玉のごと清波がりけり

この歌は当時の生活を如実に表現している。こうした中にある真間の井に關
しては次の一首を残している。

「水の端に亀井の水のあふるれば
地すくなくかつしかの真間」



白秋のいたころの亀井院

その頃、江戸川を渡った小ぢ
の川べりに建つ、離れを借りて
暮したが、これを常盤草舎とよ
んでいる。

昭和五十八年三月
市川市教育委員会

解説すると左の写真は北原白秋がここで生活していたころの写真とのこと







手児奈がいつもここに立って水をくんだと伝えられる「真間の井」



北原白秋の歌が刻まれている



手児奈靈堂

千葉県市川市在



手児奈靈堂

あまりの美しさのため多くの男に言い寄られ、また男同士が争うのを知り、それを悩み苦しんで身を投じて死んだという手児奈の霊を慰めるために建てられたという。手児は東国語で娘のこと。奈は愛称。

ぐほうじ

場所	弘法寺
所在地	市川市真間4-5-21
開催期間	通年
定休日	無休
交通機関(電車)	JR総武線市川駅北口から徒歩13分
交通機関(バス)	JR総武線市川駅北口からバス松戸駅行き「真間山下」下車徒歩3分
連絡先(名称)	弘法寺 047-371-2953

